

令和 6 年度（第 41 期）

事業報告書

令和 6 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日

公益財団法人 仁泉会

I	概況	3
II	運営施設の事業報告	
1	北福島医療センター	9
2	保原中央クリニック	17
3	プライムケア桃花林	20
4	あぶくま訪問看護ステーション	23
5	あぶくまヘルパーステーション	25
6	あぶくまケアプランステーション	26
7	伊達市保原地域包括支援センター	27
III	参考資料	29
1	法人概要	31
2	沿革	32
3	組織図	34
4	評議員・役員・会計監査人の状況	35
5	職員の状況	36

令和 6 年度公益財団法人仁泉会事業報告

I 概況

公益法人としての役割と責務を継続するため、令和 6 年度に掲げた事業計画に基づき、法人内各事業所と連携を図りながら、選ばれる医療・介護の提供と信頼される組織づくりに取り組みました。その実施状況について報告いたします。

北福島医療センター新築移転工事計画への取り組み

北福島医療センター新築移転工事は、6 月理事会での承認以降、計画を推進するため、VECD の提案を受けながら工事請負契約書の精査に注力しました。請負契約締結後は、12 月 1 日からの本工事着工に向けて、工事の安全を祈願する起工式を執り行いました。開設準備室を中心とする定例会議に加え、年明けより、各部門との図面確認、機器・什器等の確認作業が行われるとともに、現在は基礎工事まで進み、工程管理や安全対策とも大きな問題なく進捗しています。診療機能の向上と患者さんへの快適な療養環境の提供、安心安全な職場環境実現のため、今後とも、近隣住民への広報活動および開院後の運用ルールや患者対応を見据えた準備を進めてまいります。

福島医大や近隣医療機関、介護福祉施設との更なる連携強化

地域住民に対するより良い医療の提供を可能にするため、福島医大との連携に取り組みました。定期的に参与お二人を交えた意見交換の場を設け、第三者的立場から北福島医療センターの運営管理および医療の質に関するより効果的な取り組みについてご助言を賜りました。また、福島医大各講座に対しても現状報告を行い、今後の課題や各講座の運営方針を尊重しながらの協議を重ね、常勤医師の支援要請に努めました。関連する福島医大各講座における教育研究の奨励については、引き続き微力ながら協力支援を継続してまいります。また、11 月に引き継がれた寄附講座は、地域性の高い糖尿病疾患を中心とする内科領域診療の充実を図ることが出来ております。

菊田敦理事の勤務にともない、福島医大小児科学講座との連携体制が整いました。保原中央クリニックに小児科外来と仁泉会予防接種センターを開設したことで、地域で不足する小児医療と併せ、自治体が進める予防接種普及およびがん予防の啓発活動を推進しました。今後の最重要課題としては、引き続き医師の確保に全力を尽くし、北福島医療センターの竣工を見据えた診療体制の構築を目指したいと思います。

地域における切れ目のない医療と介護サービスを提供するため、近隣の開業医や施設、介護事業所等との情報共有の強化に努めました。特に、10 月より始動となった在宅医療・介護連携支援センターが主導となり、伊達市を中心とする自治体での地域包括システムが構築される中、医療介護多職種連携研修会や協議会への参加頻度を重ね、連携の実効性を高めることが出来ました。

質の高い医療と介護の提供を支えるスタッフの安定した確保と育成 働き方改革に基づいた勤務環境の改善と離職防止対策

専任の採用広報担当を配置し、人材確保チームを中心として採用困難職種となっている看護師、医療技術職等の確保に努めるため、ホームページやSNSを通して積極的に情報発信をしました。地元高校、専門校、医療系大学の進路指導担当者訪問や、出前講座の実施および就職説明会や見学会を実施する等、学生や求職者に当法人を認知いただけるような取り組みを行いました。また、前年度同様に奨学金制度と就職祝金制度を設け、学生の就学支援を通じた人材確保も行っております。

法人内でのキャリアアップを促す支援体制の構築を進め、定期的なOJT、外部研修、eラーニング等の学習機会を提供しました。6月の診療報酬改定では、医療機関で働く職員の賃金引上げを目的とした新たな評価制度が実施されています。

職場環境の改善は、労働時間の短縮のみならず、「働きがい」と「働きやすさ」の両立が必要であるとの認識のもと、シフトの柔軟化と休暇取得の推進を行い、勤務表作成時においては、個別の希望を最大限に考慮したり有給休暇の取得を奨励しました。また、記録や委員会の簡素化を進め、本来の業務に従事出来るよう、職員の負担軽減を図りました。新たな取り組みとしては、休暇制度を新設し、年一回のバースデー休暇と勤続5年以上の職員を対象としたリフレッシュ休暇を設けました。

入職間もない新入職員のフォローアップと中堅職員の定着支援が課題となりますが、管理職研修等による啓発の取り組みにより、数年前と比較して定着に改善が見られていますので、離職率の更なる低減を図ってまいります。

持続可能な経営基盤の確立

2024年診療・介護報酬改定への適切な対応

法人全体での更なる収益確保と支出の適正化

北福島医療センター新築移転工事請負契約書締結にともない、融資組成を見据えた資金計画を進めました。6月の診療報酬改定は、物価高騰や賃金上昇、人材確保の必要性、患者負担・保険料負担の影響を踏まえて実施されました。診療報酬本体が0.88%引き上げられ、新たに医療従事者への処遇改善が求められる内容となったため、改定に則り、各事業所の加算取得範囲内での適切な配分を行いました。次回報酬改定までの暫定的措置と位置付けられていることから、中期的課題として、賃金水準の見直しと人件費の増加を踏まえた収支計画の再評価を進めなければならないと考えています。

エネルギー管理関連においては、5月に電力会社の切り替えを進めたことで、法人全体の電気料金を大幅に削減することが出来ました。

法人内各事業所の管理者とともに毎月事業運営会議を実施し、財務指標の共有を図りました。各事業所ごとの売上目標を設定し、数値意識を持つことで、目標未達の原因分析が進み、改善活動に取り組むことが出来ました。また、会議には理事長も出席することから、経営陣の方向性や重視している点について等、現場の管理者にも伝わり、経営に対する理解と信頼を高める契機となりました。

今後も引き続き各事業所に対しては、経費の推移、効率的な加算の取得、後発品や

汎用品への切り替えや委託業者との契約見直しなど、計画的かつ実務的な支援を行うとともに、数字の確認のみに留まらず、取り組みへのフィードバックを大切にしたいと思います。

令和6年度の医業収益は、救急患者の受け入れと病床確保を重点に取り組んだ結果、北福島医療センターの入院収入や外来収入が増加したことで、前年同期比 311 百万円増加し 6,220 百万円となりました。

医業費用は、高額医薬品の使用量の増加等で一部費用の増加はありましたが、減価償却費の減少や経費の削減に努めたことで、前年同期比 39 百万円減少し 5,893 百万円となりました。この結果、利益の根幹をなす医業利益は前年同期比 350 百万円増加し 326 百万円を計上することが出来ました。

経常利益は、新型コロナウイルス感染症関連の一過性の補助金収入の減少や、北福島医療センターの新築移転工事に伴う諸費用の増加等はありませんでしたが、前年同期比 59 百万円増加し 341 百万円となりました。また、当期利益も前年同期比 33 百万円増加し 314 百万円となりました。

感染予防対策の継続と次なる新興感染症等の対応を課題とした取り組み

感染予防対策の継続と次なる新興感染症等の対応を課題とした取り組みとして、全国の施設における感染症診療状況、感染対策への取り組みや構造、医療関連感染の発生状況、抗菌薬の使用状況等に関する情報を集約させ、それらを参加施設や参加施設の地域等が活用していくことを目的とする感染対策連携共通プラットフォーム(J-SIPHE)への登録を行っております。院内の抗菌薬使用状況、薬剤耐性菌検出状況、手指消毒剤使用量等を定期的に報告し、年間を通して全国の登録医療機関との比較検討を行いながら、法人内での報告や北福島医療センター感染管理室を中心とした活動、感染予防対策を実施しました。北福島医療センターとの連携施設、地域の医療機関や県北保健所、相双保健所、伊達医師会、相馬郡医師会との合同カンファレンスを開催することで、県北地域のみならず、保健所管内を超えて、有事の際に協力し合える体制の構築を図りました。

カンファレンスでは、県北地域の診療所受診患者が新興感染症を疑われる事例であった場合を想定したシミュレーション訓練を行いました。また、個人用防御具の着脱指導と併せ、N95 マスクを持参いただき、令和5年度に当法人で購入した器械を使用したN95 マスクフィッティングテストを実施することで、当法人職員の他、地域の医療機関や介護施設で働く皆さんが、安全に安心して仕事に取り組む環境を構築することに貢献しました。引き続き、地域の感染対策活動に貢献出来るよう、平時からの連携連絡体制を維持してまいります。

ICT 化の推進と利活用

ICT 化の推進と利活用については、更なる法人全体の ICT 環境の充実を目指し、着実に取り組みを進めました。ホームページおよび SNS を活用し、最新の情報を提供することで、法人内各事業所のタイムリーな内容を効果的に伝えることが出来ました。

- 決議事項 第1号議案 就業規則の改定（案）について
- ⑥ 期 日 令和7年2月12日（水）書面決議
- 議 案 決議事項 第1号議案 評議員会の招集について
- ⑦ 期 日 令和7年3月17日（月）
- 議 案 決議事項 第1号議案 令和7年度（第42期）事業計画（案）について
- 第2号議案 令和7年度（第42期）収支予算（案）および令和6年度（第41期）決算の見通しについて
- 第3号議案 重要な使用人の選任（案）について

2. 評議員会の開催

- ① 期 日 令和6年6月24日（月）
- 議 案 報告事項 第1号報告 北福島医療センター新築移転計画について
- 決議事項 第1号議案 令和5年度（第40期）事業報告（案）について
- 第2号議案 令和5年度（第40期）決算報告（案）について
- 第3号議案 理事の選任（案）について
- 第4号議案 監事の選任（案）について
- 第5号議案 会計監査人の選任（案）について
- ② 期 日 令和7年3月17日（月）
- 議 案 決議事項 第1号議案 令和7年度（第42期）事業計画（案）について
- 第2号議案 令和7年度（第42期）収支予算（案）および令和6年度（第41期）決算の見通しについて
- 報告事項 第1号報告 新築移転工事の進捗状況について
- 第2号報告 重要な使用人の選任について
- 第3号報告 寄附金等について

3. 法人経営会議の開催

令和6年度 計10回開催

内 容 経営に関する重要事項の決定、理事会に上程すべき事項の検討および決定等

- ① 期 日 令和6年4月1日（月）
- 議 事 令和6年度定期昇給について
- ② 期 日 令和6年4月12日（金）
- 議 事 (1) 介護報酬改定に伴う介護処遇改善加算について
- (2) わんぱくらんど跡地について

(3) 梁川病院跡地について

- ③ 期 日 令和6年5月24日（金）
議 事 (1) 令和6年度夏季賞与（案）について
(2) 保原中央クリニック4階エアコン工事について
(3) あぶくま訪問看護ステーション建屋のエアコン改修について
- ④ 期 日 令和6年8月19日（月）
議 事 (1) 診療報酬改定に伴うベースアップについて
(2) 社会福祉士の定年退職年齢引き上げについて
(3) 正規職員の大学院進学について
(4) 梁川病院およびわんぱくらんど跡地について
- ⑤ 期 日 令和6年9月6日（金）
議 事 看護部人事について
- ⑥ 期 日 令和6年10月4日（金）
議 事 看護部人事について
- ⑦ 期 日 令和6年11月5日（火）
議 事 (1) 令和6年度冬季賞与（案）について
(2) 新築移転にかかる寄付について
(3) 2025年度からの小児科外来について
- ⑧ 期 日 令和6年12月24日（火）
議 事 確定拠出年金の商品追加について
- ⑨ 期 日 令和7年1月21日（火）
議 事 職員の懲戒処分について
- ⑩ 期 日 令和7年2月14日（金）
議 事 (1) 職員の懲戒処分について
(2) 福島医大各講座への奨学寄附金について
(3) 菊田敦理事からの申出について
(4) 令和8年度就職祝金制度について
(5) 桃花林職員の労働時間について
- ⑪ 期 日 令和7年3月7日（金）
議 事 (1) 令和7年度（第42期）事業計画（案）について
(2) 令和7年度（第42期）収支予算（案）について
(3) 重要な使用人の選任について
- ⑫ 期 日 令和7年3月31日（月）
議 事 (1) 令和7年度定期昇給について
(2) 給与規程の改定について
(3) 医療費助成規定について

Ⅱ 運営施設の事業報告

1 北福島医療センター（令和 7 年 3 月 31 日現在）

（1）事業報告

令和 8 年秋に竣工予定である新築移転工事について、令和 6 年 12 月に着手しました。この大きなプロジェクトを成功に繋げるべく、安定的な業績の確保に注力した 1 年でした。

今以上の業績確保を目指すためには、病床稼働を向上させ、積極的に救急患者の受け入れを行うこと、および当院の病棟構成の特色を生かしたベッドコントロールを効果的に行うことが急務であることとし、これらの課題について院内での主要な会議を通じて意識の共有化を図り、改善のために様々な取り組みを実施しました。令和 6 年度の主な事業内容は下記のとおりとなります。

●救急患者の受け入れと病床稼働率の向上について

関係機関との連携を図りながら、救急車の受け入れ台数は年間目標である 1,200 件を上回る約 1,500 件の受け入れを行い、その内の約半数を入院へつなげることが出来ました。また、主に急性期病棟への入院患者に対し事前に諸手続きや説明を行う『入院前面談業務』を 4 月より開始し、入院当日の煩雑さを解消することで、効率的な受け入れを行いました。回復期病棟や医療療養病棟においては、現在の空床状況の発信や入院依頼から受け入れまでに要する時間を短縮させるなど、確実に入院患者の受け入れが可能となるよう取り組みました。結果として令和 6 年度の病床稼働率は 83.1%と昨年度比で 4 ポイント上昇となりましたが、計画の病床稼働率に大きな開きがあった医療療養病棟においては病棟医師の充足が図れるよう次年度に向けて改善策を協議しているところです。

●専門診療科について

乳腺外科、血液内科、消化器外科の専門診療科の領域については、がん治療に対し患者への十分な説明を行うとともに、治療方針に対する意向を尊重しながら化学療法や手術を積極的に行いました。手術件数については、消化器外科において昨年度比で約 90 件の増加、乳腺外科においては約 10 件の増加となりました。血液内科を中心に実施される輸血療法については、昨年度比で約 100 件増加し、上記 3 科にて実施される化学療法については、約 200 件の増加となるなど、引き続き充実した体制を維持することが出来ました。

●感染防止対策について

令和 5 年 5 月に 5 類に移行し、令和 6 年 4 月には通常医療提供体制となった新型コロナウイルス感染症については、院内の感染対策との両立を図りながら、常時、対応の見直しを図り、複数の病棟でも対応出来るよう病室の整備を進めました。同年 10

月には福島県と新興感染症発生時の病床確保体制に関する医療協定を結び、引き続き地域の感染防止対策の責務を担うこととなりました。

●予防接種センター開設について

令和6年10月には保原中央クリニックとともに仁泉会予防接種センターを開設しました。当院においては、予防健診センターを窓口として幅広いワクチン接種について対応をし、年度末までに延べ1,615件のワクチン接種を行いました。引き続き地域の公衆衛生の向上に協力するとともに、地域住民のニーズに対応してまいります。

●寄附講座について

令和6年11月には当院に設置しております寄附講座が総合内科・感染症科から糖尿病内分泌代謝内科へ引き継がれ、新たに2名の常勤医師が着任しました。専門的診療のほか、救急外来を含めた一般内科診療についても受け入れを行い、入院患者の対応も行っております。

以上の取り組み等により、業績は開設以来の黒字となる見込みです。この結果は、従来北福島医療センターが果たすべき役割である『地域医療と専門医療の両立』についてを職員全体で共有を行い、やるべきことを愚直に遂行したことによってもたらされた結果であると実感しており、今後も継続したいと思います。

最後になりますが、5年ぶりに地域連携の集いを開催しました。近隣の医療機関との懇親の中で、新築移転計画の説明を行うなど、当院の目指すべき姿を直接お示しすることが出来たと感じています。引き続き、地域を支える伊達地域の中核病院として、運営を進めてまいります。

(2) 診療実績

① 入院・外来の概要 ＊病床稼働率の算出は、宿泊ドックおよび退院数を除く入院患者延数で算出

入院概要			外来概要		
項 目	令和6年度	令和5年度	項 目	令和6年度	令和5年度
入院患者延数 (退院数含む)	61,584 人	53,601 人	患者延数	45,598 人	43,815 人
1日平均在院数	160.0 人	138.9 人	実働1日平均数 (救急外来患者含む)	154 人	146 人
平均在院日数	10.85 日	12.00 日	実働日数	296 日	295 日
病床稼働率%	75.0%	61.6%	外来平均単価	26,796 円	25,078 円
入院平均単価 (室料含む)	47,987 円	50,133 円			

(診療科別)

(単位：人)

入院患者延べ数 (退院数含まず)			外来患者延べ数 (救外患者含む)		
項 目	令和6年度	令和5年度	項 目	令和6年度	令和5年度
内科	3,658	3,497	内科	1,592	1,752

入院患者延べ数（退院数含まず）			外来患者延べ数（救外患者含む）		
血液内科	10,490	10,937	血液内科	7,799	7,851
脳神経内科	0	0	脳神経内科	936	948
消化器科・外科	7,600	5,768	消化器科・外科	9,325	7,332
乳腺科	2,707	2,325	乳腺科	9,527	8,961
循環器科	0	0	循環器科	2,440	3,170
整形外科	2,120	2,395	整形外科	2,790	2,707
眼科	342	314	眼科	12	12
リハビリテーション科	14,306	13,563	リハビリテーション科	2,114	2,183
放射線科	100	145	放射線科	4,477	4,629
総合内科	1,254	2,943	総合内科	701	1,261
糖尿病内分泌代謝内科	969		糖尿病内分泌代謝内科	394	
療養内科	14,798	8,862	療養内科	2,212	1,932
人間ドック	0	0	人間ドック	16,844	16,812
発熱外来	0	0	発熱外来	0	9
その他	0	0	その他	1,279	1,068
合 計	58,344	50,749	合 計	62,442	60,627

② 救急搬入患者（日勤帯 8：30-17：30 夜間帯 17：30-8：30）

救急車による救急患者			その他の救急患者		
項 目	令和 6 年度	令和 5 年度	項 目	令和 6 年度	令和 5 年度
日勤帯搬入患者	911 人	735 人	日勤帯	1,669 人	2,024 人
夜間帯搬入患者	618 人	489 人	夜間帯	690 人	682 人
救急車台数	1,529 台	1,224 台			

1 日平均救急外来患者数	令和 6 年度	令和 5 年度
	10.65 人	10.70 人

③ 手術件数 ＊（ ）内は手術室の共同利用の再掲（単位：件）

診療科	令和 6 年度	令和 5 年度
消化器科	246	158
整形外科	127 (50)	109 (35)
乳腺科	215	207
眼科	342	315
合計	930 (50)	789 (35)

④ 紹介・逆紹介患者数

項 目	令和 6 年度	令和 5 年度
紹介患者数（初診患者）	5406 人	5,478 人
紹介率	86.7%	84.9%
診療情報提供書	2,845 件	2,842 件
逆紹介率	86.7%	91.7%

⑤ 画像検査件数 *（ ）内は画像検査機器の共同利用の再掲

（単位：件）

項 目	令和 6 年度	令和 5 年度
MRI 検査	4,009 (2,190)	4,261 (2,300)
CT 検査	6,807 (864)	6,550 (922)
RI 検査	147 (0)	131 (0)

⑥ 放射線治療件数

（単位：件）

項 目	令和 6 年度	令和 5 年度
治療計画実数	173	168

（部位別治療延件数）*（ ）内は院外紹介の治療延件数の再掲

（単位：件）

項 目	令和 6 年度	令和 5 年度
乳房術後照射	2,030 (45)	1,872 (96)
前立腺	854 (854)	1,461 (1,461)
骨転移	188 (54)	46
リンパ腫	61 (47)	180 (19)
腫瘍（頭部）	90 (25)	31 (6)
腫瘍（頸部）	72 (35)	41
腫瘍（胸部）	188 (87)	121
腫瘍（腹部）	140 (28)	61 (51)
腫瘍（骨盤）	145 (51)	59
腫瘍（脊椎）	1	10
腫瘍（四肢）	35	10
リンパ節転移	0	28 (28)
合計	3,804 (1,226)	3,920 (1,661)

⑦ 輸血療法・化学療法・移植

(単位：件)

項 目	令和 6 年度	令和 5 年度
輸血療法	768	662
化学療法	1,700	1,513
移植	0	0

⑧ 内視鏡検査

(単位：件)

項 目	令和 6 年度	令和 5 年度
上部消化管内視鏡	5,550	5,475
下部消化管内視鏡	1,017	997

⑨ リハビリテーション患者数

項 目		令和 6 年度		令和 5 年度	
		単位数	患者数※	単位数	患者数
入院	急性期	37,041	3,003	30,502	1,572
	回復期	91,498	1,435	86,280	653
	療養病棟	5,241	792	3,427	324
外来		6,554	1,739	6,738	1,488

※患者数の取扱いについて

令和 6 年度 6 月の診療報酬改定において介入するセラピスト毎に外来数を計上する方式に変更となりました。

⑩ 予防健診受診延べ数

(単位：人)

項 目	令和 6 年度	令和 5 年度
日帰りドック	2,414	2,457
住民検診	3,440	3,880
臓器別検診	2,633	1,148
その他の検診	2,843	3,574
協会けんぽ健診	3,524	3,260
保健指導	1,149	1,024

⑪ 予防接種センター（令和 6 年度より）

項 目	令和 6 年度	令和 5 年度
予防接種件数 （北福島医療センターのみ）	2,083 （内 10 月開設以降 2,081 ）	2,846

(3) 施設概要

- ① 所在地 〒960-0502 伊達市箱崎字東 23 番地 1
TEL 024-551-0551 FAX 024-551-0808
- 標榜科目 内科 脳神経内科 血液内科 内科・リウマチ科 糖尿病内科
(18 科) 内分泌内科 代謝内科 消化器内科 消化器外科 循環器内科 外科
乳腺外科 整形外科 婦人科 眼科 リハビリテーション科 放射線科
麻酔科
- ② 開設年月日 平成 14 年 12 月 1 日
- ③ 院長 松本 進
- ④ 病床数 225 床 (急性期病床 120 床、回復期病床 55 床、慢性期病床 50 床)
- ⑤ 構造および面積 S 造・1 階一部 RC 造 19,248.75 m²
- ⑥ 敷地面積 35,142 平方メートル
- ⑦ 職員数 329.3 名 (常勤換算)
- ⑧ 施設基準等

・認定施設

健康保険法指定保険医療機関	国民健康保険指定保険医療機関
地域医療支援病院認定施設	DPC 対象病院
臨床研修病院 (協力型)	労災保険指定医療機関
地域リハビリテーション相談センター	母体保護法指定医療機関
生活保護法指定医療機関	海外渡航者予防接種実施機関
結核予防法指定医療機関	日本臍帯血ネットワーク「移植医療機関登録」
救急告示病院 (第二次救急医療機関)	開放型病院認定
原子爆弾被爆者一般疾病医療機関	臨床修練指定病院
日本病院協会指定人間ドック機関	全日本病院協会指定人間ドック機関
伊達市、国見・桑折町施設検診医療機関	全国健康保険協会生活習慣病予防健診実施機関
労災保険二次健診等給付医療機関	特定健診・特定保健指導実施医療機関

・届出事項

(基本診療科)

急性期一般入院料 2	データ提出加算 2-イ
療養病棟入院料 2	患者サポート体制充実加算
看護職員配置加算	診療録管理体制加算 2
看護補助者配置加算	回復期リハビリテーション病棟入院料 1
療養環境加算	急性期看護補助体制加算 夜間 100 対 1
栄養サポートチーム加算	重症者等療養環境特別加算
医療安全対策加算 1	急性期看護補助体制加算 25 対 1
医療安全地域連携加算 1	救急医療管理加算

医師事務作業補助体制加算（1）20 対 1
看護職員夜間 16 対 1 配置加算 1
入退院支援加算 1
感染対策向上加算 1
感染対策向上加算
感染対策向上加算

せん妄ハイリスク患者ケア加算
抗菌薬適正使用体制加算
入院時支援加算
看護職員処遇改善評価料 37
指導強化加算

（特掲診療科）

開放型病院共同指導料
がん性疼痛緩和指導管理料
がん治療連携指導料
画像診断管理加算 2
医療機器安全管理料 1
検体検査管理加算（Ⅱ）
乳がんセンチネルリンパ節加算 1 およびセンチネルリンパ節生検（併用）
冠動脈 CT 撮影加算
心臓 MRI 撮影加算
乳房 MRI 撮影加算
脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）初期加算
呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）初期加算
運動器リハビリテーション料（Ⅰ）初期加算
外来放射線治療加算
強度変調放射線治療（IMRT）
体外照射用固定器具加算
1 回線量増加加算（全乳房照射・前立腺）
胃瘻造設時嚥下機能評価加算
がん患者指導管理料Ⅰ
二次性骨折予防継続管理料 1
二次性骨折予防継続管理料 3
夜間休日救急搬送医学管理料の注 3 に規定する救急搬送看護体制加算 2
在宅療養後方支援病院
外来ベースアップ評価料（Ⅰ）

薬剤管理指導料
外来腫瘍化学療法診療科 1
外来化学療法加算 1
CT 撮影および MRI 撮影
医療機器安全管理料 2
高エネルギー放射線治療
乳がんセンチネルリンパ節加算 2 およびセンチネルリンパ節生検（単独）
MRI3 テスラ以上施設共同利用
64 列以上マルチスライス CT 施設共同利用
在宅患者訪問看護・指導料
外来リハビリテーション診療料
がん患者リハビリテーション料
画像誘導放射線治療加算（IGRT）
定位放射線治療（体幹部に対して行う場合）
放射線治療管理料
放射線治療専任加算
人工肛門・人工膀胱造設術前処理加算
BRCA1/2 遺伝子検査
がん患者指導管理料ロ
二次性骨折予防継続管理料 2
時間内歩行試験およびシャトルウォーキングテスト
無菌製剤処理料
経腸栄養管理加算
入院ベースアップ評価料 40

・学会認定施設

日本血液学会認定血液研修施設

日本乳癌学会認定施設

日本外科学会外科専門医制度関連施設

日本乳がん検診精度管理中央機構マンモグ

ラフィ検診施設画像認定施設

日本老年医学会認定施設

日本リハビリテーション医学会研修施設

日本感染症学会認定施設

日本静脈経腸栄養学会・NST 稼働施設

薬学教育協議会薬学生実務実習受入施設

(4) DPC 係数

基礎係数 1.0451 + 激変緩和係数 0 + 救急補正係数 0.0158 + 機能評価係数Ⅰ 0.3048 + 機能評価係数Ⅱ
0.0741 = 1.4398

【機能評価係数Ⅰ】 合計 0.3048

1、入院基本料 10 対 1	0.0874
2、地域医療支援病院入院診療加算	0.0300
3、臨床研修病院入院診療加算 2 協力型	0.0000
4、急性看護補助加算（25 対 1 看護補助者）	0.0538
5、急性期看護補助加算（夜間 100 対 1）	0.0257
6、医療安全体制加算 1	0.0029
7、医療安全地域対策加算 1	0.0017
8、データ提出加算 2-イ	0.0054
9、提出データ評価加算	0.0000
10、検体検査管理加算Ⅱ	0.0026
11、診療録管理加算	0.0030
12、医師事務作業補助加算 1（20 対 1）	0.0295
13、後発医薬品使用体制加算 1	0.0026
14、看護職員夜間配置加算（16 対 1）	0.0171
15、感染対策向上加算 1	0.0245
16、感染対策向上加算 指導強化加算	0.0010
17、抗菌薬適正使用加算	0.0002
18、夜間看護体制加算	0.0174

【機能評価係数Ⅱ】 合計 0.0741

1、保険診療係数	0.00000
2、効率性係数	0.01958
3、複雑性係数	0.03734
4、カバー率係数	0.00698
5、地域医療係数	0.01023

2 保原中央クリニック（令和7年3月31日現在）

（1）事業報告

令和6年4月1日より、新たに2名の医師を迎え、週2回の小児科外来を開設しました。そのうち菊田敦先生には10月1日より立ち上げた「仁泉会予防接種センター」の顧問にも就任いただきました。

4階フロアの空調機を更新し、7月には家庭医療科が従来診察を行っていた4階に戻りました。2階待ち合いの混雑が解消され、スタッフも患者様にも、慣れ親しんだ場所で安心して診療を行えるようになりました。

長年勤務いただいた内科医師2名の退職に伴う紹介と移行に数ヶ月を要し、患者様に大きなご負担をお掛けしました。その影響もあり、業績が伸び悩む期間が続くことがありましたが、大きく収益に繋がったのは自治体指導による子宮頸がんワクチンとコロナワクチン予防接種です。一般の予防接種と同様に接種することが出来、自治体からの補助が大きいことも、多くの住民の接種に繋がった理由だと思います。

今後、2年後に控えた北福島医療センターへの統合に向けて実質的な準備を開始します。同時に小児科など診療体制を拡大し、ますます地域医療に貢献する所存です。COVID-19は未だに完全収束には至らず、感染対策も続けなくてはなりません。地域住民のため当院に与えられた役割を果たしてまいります。

（2）診療実績

① 外来の概要

項 目	令和6年度	令和5年度
外来患者延数	57,725 人	59,574 人
実働日平均数	196.4 人	202.6 人
実働日数	294 日	294 日
新患者数	360 人	335 人

（診療科別）

（単位：人）

項 目	令和6年度	令和5年度
内科	26,368	28,263
整形外科	6,967	7,734
心臓血管外科	594	633
婦人科	3,132	3,536
眼科	14,468	13,973
小児科	628	
皮膚科	1,400	1,530
耳鼻咽喉科	3,322	3,309

電離検診、健康診断	856	596
合 計	57,735	59,574

② 訪問診療延べ数

(単位：人)

診療科	令和 6 年度	令和 5 年度
家庭医療科	1,166	1,147

③ 紹介患者数

診療科	令和 6 年度	令和 5 年度
紹介患者数	683	622
紹介率	20.7%	17.7%
逆紹介患者数	870	758
逆紹介率	26.3%	21.5%

④ 予防接種センター（令和 6 年度より）

(単位：件)

診療科	令和 6 年度	令和 5 年度
予防接種件数 (保原中央クリニックのみ)	2,939 (内 10 月開設以降 2,696)	2,615

(3) 施設概要

① 所在地

〒960-0611 伊達市保原町字城ノ内 73 番地 1

TEL 024-575-3231 FAX 024-575-3233

② 標榜科目

内科 整形外科 心臓血管外科 皮膚科 婦人科 眼科 耳鼻咽喉科

(8 科)

小児科

③ 開設年月日

平成 14 年 12 月 1 日

④ 管理者

院長 菊池 重幸

⑤ 構造および面積

鉄筋コンクリート 7,559.54 m²

⑥ 敷地面積

6,593.2 m²

⑦ 職員数

35.6 名 (常勤換算)

⑧ 施設基準等

・認定施設

健康保険法指定保険医療機関

国民健康保険指定保険医療機関

労災保険指定医療機関

生活保護法指定医療機関

母体保護法指定医療機関

結核予防法指定医療機関

海外渡航者予防接種実施機関

原子爆弾被爆者一般疾医療取扱機関

在宅酸素施設認定

子宮癌施設検診医療機関

第二種協定指定医療機関

・届出事項

在宅時医学総合管理料（強化型）

ニコチン依存症管理料

コンタクトレンズ検査料 1

がん性疼痛緩和指導管理料

夜間・早朝等加算

明細書発行体制加算

外来・在宅ベースアップ評価料（Ⅰ）

検体検査管理加算（Ⅰ）

在宅療養支援診療所

在宅末期医療総合診療料

外来感染対策向上加算

がん治療連携指導料

電子化加算

3 プライムケア桃花林（令和7年3月31日現在）

(1) 事業報告

令和6年度の介護報酬改定は、全体として1.5%のプラス改定となりました。しかし、取得を予定していた加算の算定件数が伸び悩み、当初の目標には届きませんでした。主な要因としては、算定要件に関わるデータ入力作業が煩雑であり、手順が十分に整備されていなかったことが挙げられます。今後は、必要な登録作業やデータ入力から届け出に至るまでの業務手順の整備、およびデータ提出作業の効率化を目的としたタブレット端末の導入などを通じた体制を強化し、加算算定の実施に繋げてまいります。

ベッド稼働率は93.6%となり、目標の97%に届きませんでした。要因の1つとしては、感染性胃腸炎の集団感染により制限を行ったことが挙げられます。初動対応で感染症の拡大を最小限に抑えるために教育訓練を実施し、感染予防対策の徹底を図ってまいります。2つめの要因としては、医療機関への入院および特別養護老人ホームへの入居に至る利用者が増加しており、再利用者が減少していることが挙げられます。入院に至った場合には、入院医療機関と早期から情報共有を図り、再入所が円滑に行えるようにしたいと思います。また、軽症の段階で協力医療機関との連携を行い、可能な限り施設内で療養が出来るような検討をしました。また、新規利用者の獲得に向け、近隣の医療機関や居宅介護支援事業所への働きかけも強化しました。

デイケアの稼働率目標を60%に設定していましたが、最終的には51.8%にとどまり、前年度と同水準の結果となりました。これは、周辺地域におけるデイサービス事業所の増加により、新規利用申込数の伸び悩みが続いたためと考えられます。こうした状況を踏まえ、次年度はデイケア事業の再編を進め、配置人員の適正化および職員の再配置を通じて、更なる業務効率の向上を図ってまいります。

給食科では、令和6年12月より食事内容の見直しを行い、時間外労働の削減と食材等の経費削減が図られています。今後、作業工程の見直しを進めることで更なる業務の効率化を目指したいところです。

今回の報酬改定により、超強化型の算定要件が厳しくなりました。訪問指導の調整に苦慮しましたが、算定を維持することが出来ました。今後も基準を満たすための取り組みを継続してまいります。また、年2回の認知症カフェ（桃カフェ）の開催や集会所への認知症予防・介護等についての講師派遣など、地域貢献活動を行いました。サロンからの派遣依頼が継続的にあるため今後も積極的に取り組み、公益財団法人としての役割を引き続き果たしてまいります。

(2) 利用者実績

① 入所・退所の概要

入所概要			通所概要		
項 目	令和 6 年度	令和 5 年度	項 目	令和 6 年度	令和 5 年度
入所者延数 (退所数含む)	51,295 人	51,899 人	通所者延数	17,415 人	17,293 人
1 日平均在所数	140.5 人	141.8 人	1 日平均通所数	47.7 人	47.2 人
利用率%	93.6%	94.5%	利用率%	51.8%	51.6%
在宅復帰率%	65.8%	66.3%			

② 経路別入所・退所

(単位：件)

経路別入所			経路別退所		
項 目	令和 6 年度	令和 5 年度	項 目	令和 6 年度	令和 5 年度
自宅	2,017	2,204	自宅	2,023	2,205
医療機関	153	143	医療機関	122	78
介護施設	14	11	介護施設	55	65
			死亡(看取り)	10	6
その他	1	6	その他	0	2

③ 在宅復帰・在宅療養支援等の状況

	令和6年度	令和5年度
在宅復帰率	65.8%	66.0%
ベッド回転率	33.4%	32.2%
入所前後訪問指導割合	38.0%	31.2%
退所前後訪問指導割合	31.2%	30.0%
居宅サービスの実施数	2サービス	2サービス
リハビリ専門職の配置割合	6.1人	6.4人
支援相談員の配置割合	3.1人	3.2人
要介護4又は5の割合	54.3%	56.4%
喀痰吸引の実施割合	2.2%	2.9%
経管栄養の実施割合	4.0%	1.8%

④ 医療ケアに関する加算状況

	令和6年度	令和5年度
ターミナルケア加算	9件	7件
所定疾患施設療養費	475日	332日
重度療養管理加算	615日	787日

(3) 施設概況

- ① 所在地等 〒960-0665 伊達市保原町字岡代 9 番地 1
TEL 024-575-0750 FAX 024-575-0962
- ② 開設年月日 平成 4 年 11 月 9 日
- ③ 管理者名 施設長 石井 証
- ④ 定床数 入所 150 名（うち認知症専門 50 名）
通所 92 名（7 単位）
- ⑤ 構造および面積 鉄筋コンクリートおよび鉄骨造 5,952.26 m²
- ⑥ 敷地面積 17,211.97 m²
- ⑦ 職員数 133.5 名（常勤換算）
- ⑧ 施設基準等

・認定施設

介護老人保健施設

生活保護法指定介護機関

（予防）短期入所療養介護

伊達市福祉避難所

（予防）通所リハビリテーション事業

4 あぶくま訪問看護ステーション（令和7年3月31日現在）

（1）事業報告

令和5年度に比べ、利用者数・訪問件数ともに減少しています。ここ数年で特別養護老人ホームやグループホームなど施設の開設が相次いだことで、待機期間なく入所可能となったことが挙げられます。また、家族の関係性にも変化が生じてきており、在宅で看護する方が少しずつ減少しているように感じます。一方で、医療人材の確保の難しさから、常にマンパワー不足を感じた一年でしたが、訪問地域の調整やタブレットの活用等で、職員の負担軽減を図りながら新規依頼等にも対応しました。在宅での看取りの件数も昨年度は55件と多くあり、関係機関との連携も取れています。「最期は家で過ごしたい」と希望される方にも、ご本人・家族の意向に沿って不安なく過ごせるように対応しました。リハビリ部門においては、育児休暇から職員が復帰したことで、新規受け入れの強化に繋がりました。訪問件数は前年度に比べ減少していますが、空き状況の発信等を行い、利用者獲得に努めています。

特定行為看護師については、資格取得に係る研修が修了し、機能強化型訪問看護療養費1の加算を維持しています。連日アルコール検知器で酒気帯び運転管理を徹底しておりましたが、今年度も訪問移動時の公用車による接触事故が数件あり、更なる安全運転の徹底が今後の課題です。このため、ドライブレコーダーを活用した勉強会を企画し、職員一人一人の安全運転に対する意識向上を図ってまいります。

（2）利用者実績

項 目	令和6年度	令和5年度
訪問看護延べ数	12,757人	13,758人
訪問リハビリ延べ数	6,490人	6,857人

（3）施設概況

- ① 所在地等 〒960-0684 伊達市保原町上保原字大地内39番地4

TEL 024-575-0001 FAX 024-575-0003

- ② 管理者名 所長 馬場 真知子

- ③ 開設日等 平成8年5月1日

サービス科目 訪問看護

- ④ 職員数 22.0名（常勤換算）

- ⑤ 施設基準等

・認定施設

国民健康保険指定保険医療機関

健康保険法指定保険医療機関

指定訪問看護事業

指定老人訪問看護事業

生活保護法指定医療機関

特定疾患治療研究事業指定医療機関

24時間対応体制

遷延性意識障害治療研究事業指定医療機関

特定自立支援医療機関（精神通院医療）

訪問リハビリ・ステーション指定機関

5 あぶくまヘルパーステーション（令和7年3月31日現在）

（1）事業報告

今年度より、近隣の居宅支援事業所に訪問枠の空き情報を文書で発信したことで、新規の依頼を継続的に受けることが出来ました。また、携帯電話の活用により、土日や祝日の早急な訪問依頼にも対応し、利用者様と各関係機関との連絡を365日体制で整えることが出来ました。

独居、高齢者世帯、認知症の方が増加していることを背景に、生活援助の依頼が昨年度と比較して増加傾向にあります。介護度が高い方の身体介護も積極的に受け入れ、多職種と連携を強化し、最期まで在宅で過ごせるよう支援しました。しかし今年度は、冬季に長期入所される方や、待機期間なく施設入所される方が増加したため、依頼件数が伸び悩みました。

今年度の報酬改定に伴う減算により、目標の収益に及びませんでした。職員一同、勉強会や研修会を通して研鑽し、利用者様やそのご家族が安心して生活を送れるよう支援してまいります。

（2）利用者実績

項 目	令和6年度	令和5年度
訪問介護延べ数	8,707人	9,828人

（3）施設概況

- ① 所在地等 〒960-0684 伊達市保原町上保原字大地内39番地4
TEL 024-575-2826 FAX 024-575-0003
- ② 管理者名 所長 瓜生 幸子
- ③ 開設日等 平成12年4月1日
サービス科目 訪問介護
- ④ 職員数 7.2名（常勤換算）
- ⑤ 施設基準等
 - ・認定施設
 - 指定居宅サービス事業（訪問介護）
 - 指定介護予防サービス事業
 - 生活保護法指定機関

6 あぶくまケアプランステーション（令和7年3月31日現在）

(1) 事業報告

今年度は、介護支援専門員の人材確保が課題となりましたが、利用者様ご自宅のインターネット環境など、算定要件を満たすことが困難な点も多く、従来通り月1回の利用者様宅訪問を継続し、状態の把握に努めました。また、訪問時の記録作業はタブレットを活用し、訪問途中の隙間時間等も利用することで、業務の効率化に繋がりました。

年度途中に職員の減少がありましたが、事務職員の配置と業務支援システム導入により、当事業所の支援可能な定員数を継続することが出来ています。

また、今年度4月より伊達市から介護予防支援事業の指定を受け、事業を開始しました。要介護認定者と同様に、相談からケアプラン作成、支援開始後の生活状況確認を定期的に行い、15名の新規の他、従来の委託者のケアプラン作成3名を含む合計18名を支援し、目標を上回る実績を上げることが出来ました。介護保険改正に伴い、支援単価が指定介護予防支援事業は1件当たり997円、委託者は34円と上がったため、わずかではありますが毎月増収となりました。

地域における多様化および複雑化する世帯の課題に対し、ヤングケアラー（大人が行うべき家事や介護を日常的に未成年が担うことにより学業等に影響が出る事例）や他の制度に関する研修会を通じて知識を習得しました。また、実践事例（当事業所と他の事業所との共同の事例検討会・年間12回）からの学びを実際の支援に活かせるよう、職員の資質向上に努め、積極的に新規の受入れを行いました。

最後に、今後も専門職が力を発揮し、利用者支援に貢献出来るよう、職員の資質向上はもとより、相談機能の維持に向けた人員確保に努めてまいります。

(2) 利用者実績

項 目	令和6年度	令和5年度
居宅介護支援計画実数	3,097 件	3,230 件
介護予防支援計画実数	196 件	0 件

(3) 施設概況

- ① 所在地等 〒960-0684 伊達市保原町上保原字大地内 39 番地 4
TEL 024-575-0707 FAX 024-575-0606
- ② 開設日 平成 12 年 4 月 1 日
- ③ 管理者名 所長 加藤 京子
- ④ 職員数 5.6 名（常勤換算）
- ⑤ 施設基準等
 - ・ 認定施設
 - 指定居宅介護支援事業
 - 指定介護予防支援事業所
 - 生活保護法指定機関

7 伊達市保原地域包括支援センター（伊達市より委託）（令和7年3月31日現在）

（1）事業報告

今年度も介護予防情報が届きにくい高齢者世帯への訪問活動と、民生児童委員や地域自治組織への介護予防拠点としてのセンター機能を周知する取り組みを行い、介護予防および認知症予防の推進を図りました。また、活動を通して把握した医療・介護に関する課題については、伊達地方在宅医療・介護連携支援センターとともに、取り組みを進める体制づくりを行いました。

さらに、介護支援専門員や介護保険事業所等と総合相談窓口としてのセンター機能を共有するとともに、健康福祉部各課との連携体制を強化したことで、相談件数の増加に繋がりました。

また、認知症になっても自分らしく暮らし続けられる地域をつくるため、「チームオレンジほばら」を発足し、活動の柱となる住民や専門職と協働し、認知症に関する正しい知識の普及に取り組むことが出来ました。

（2）利用者実績

項 目	令和6年度	令和5年度
相談実件数	4,243 件	4,008 件
介護予防支援計画作成者実数	2,278 件	2,404 件

（3）施設概況

- ① 所在地等 〒960-0684 伊達市保原町上保原字大地内 39 番地 4
TEL 024-574-4774 FAX 024-574-4811
- ② 開設日 平成 18 年 4 月 1 日
- ③ 管理者名 所長 森 美樹
- ④ 職員数 4.8 名（常勤換算）
- ⑤ 施設基準等
 - ・ 認定施設
 - 介護予防支援事業
 - 生活保護法指定機関

III 参 考 資 料

1 法人概要(令和 7 年 3 月 31 日現在)

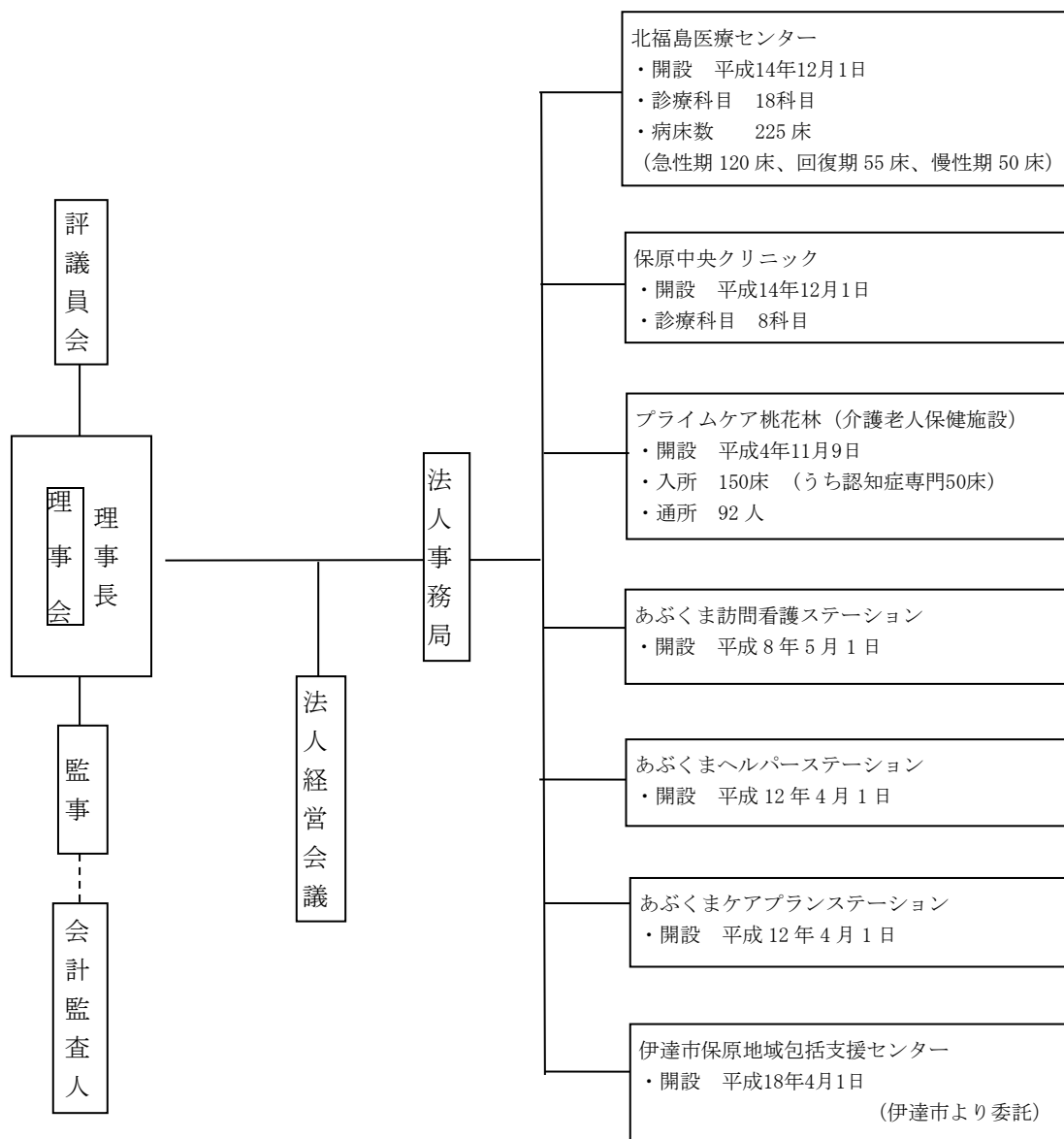
- | | |
|------------|---|
| (1) 法人名 | 公益財団法人 仁泉会 |
| (2) 代表理事名 | 木村 秀夫 |
| (3) 法人住所 | 〒960-0596 福島県伊達市箱崎字東 23 番地 1 |
| (4) 公益目的事業 | 医療および介護を提供する活動、疾病予防活動および健康増進に関する啓蒙活動を行い、地域住民の健康保持増進に寄与する事業 |
| (5) 開設日 | 昭和 59 年 4 月 1 日（公益財団法人認定 平成 23 年 8 月 1 日） |
| (6) 運営施設 | 北福島医療センター（地域医療支援病院）
保原中央クリニック（外来専門）
プライムケア桃花林（介護老人保健施設）
あぶくま訪問看護ステーション
あぶくまヘルパーステーション
あぶくまケアプランステーション（居宅介護支援事業所）
伊達市保原地域包括支援センター（伊達市より委託） |
| (7) 職員数 | 603 名（令和 7 年 3 月 31 日現在） |

2 沿革

昭和 30 年	12 月 15 日	伊達郡保原町字栄町に さとう医院 (12 床) 開設
34 年	12 月	伊達郡保原町字古町に さとう医院 新築移転 (19 床)
41 年	2 月	伊達郡保原町字城ノ内に保原中央病院 移転 開設 (40 床)
44 年	4 月	院内保育所開設
47 年	9 月	独身寮、社宅の完成 (保原町字古町)
48 年	4 月	医療法人保原中央病院設立 (111 床)
50 年	9 月	医療法人好仁会設立
51 年	3 月	本館増築 保原中央病院 (70 床)
		増築に伴い、旧保原中央病院 (111 床) を保原第一病院として開設
53 年	11 月	保原中央病院、保原第一病院合併 (181 床)
59 年	4 月 1 日	財団法人仁泉会医学研究所設立
	12 月 28 日	保原中央病院増改築工事完成 (252 床)
61 年	4 月 1 日	総合病院認可 総合保原中央病院
	9 月 1 日	巡回診療所開設
62 年	9 月 1 日	動物実験研究棟の完成
平成 2 年	2 月 1 日	院内保育所わんぱくらんど移転
		運動療法研究センター開設 (旧保育所)
3 年	12 月 1 日	セイントクリニック開設 (19 床)
4 年	11 月 9 日	老人保健施設プライムケア桃花林開設 (100 床)
	11 月 10 日	ほばら訪問看護ステーション開設
7 年	4 月 20 日	保原町在宅介護支援センター受託開始
	6 月 1 日	総合保原中央病院附属みなみクリニック開設
8 年	5 月 1 日	あぶくま訪問看護ステーション開設
10 年	4 月 13 日	老人保健施設プライムケア桃花林認知症専門棟増築 (150 床)
12 年	4 月 1 日	保原指定居宅介護支援事業所開設
		保原訪問看護ステーションをほばら訪問看護ステーションに改名
		ほばらヘルパーステーション開設
		ほばら訪看指定居宅介護支援事業所開設
		あぶくまヘルパーステーション開設
		あぶくま訪看指定居宅介護支援事業所開設
12 年	4 月 25 日	財団法人仁泉会医学研究所評議員会設置
14 年	12 月 1 日	北福島医療センター開設 (226 床)
		総合保原中央病院を閉院し、保原中央クリニック開設
15 年	5 月 1 日	みなみクリニックを閉院し、保原中央クリニックに統合
18 年	4 月 1 日	町村合併に伴い、伊達市保原地域包括支援センターとして受託開始

20 年	5 月 28 日	保原中央クリニックに家庭医療科を開設 (福島県立医科大学 地域・家庭医療部による家庭医を育成する家庭医療学センター併設)
21 年	6 月 1 日	北福島医療センターに隣接させ放射線治療センターを増築
23 年	8 月 1 日	公益財団法人認定 公益財団法人仁泉会へ名称変更
23 年	10 月 1 日	梁川病院開設
30 年	7 月 20 日	ホームホスピスまほろば開設
令和 2 年	3 月 31 日	セイントクリニック閉院
	3 月 31 日	ホームホスピスまほろば閉所
	10 月 1 日	福島県立医科大学寄附講座「総合内科・臨床感染症学講座」開設
3 年	9 月 1 日	北福島医療センター内にリケッチア症研究所開設
	12 月 1 日	梁川病院 介護療養病床 50 床のうち 20 床を医療療養病床に転換
4 年	10 月 1 日	ほばら訪問看護ステーションをあぶくま訪問看護ステーションに統合 ほばらヘルパーステーションをあぶくまヘルパーステーションに統合 あぶくま訪看指定居宅介護支援事業所、ほばら訪看指定居宅介護支援事業所、 保原指定居宅介護支援事業所を統合し、あぶくまケアプランステーションと 改名
4 年	10 月 1 日	あぶくま訪問看護ステーション、あぶくまヘルパーステーション、あぶくま ケアプランステーション、伊達市保原地域包括支援センター（伊達市より委 託）の 4 事業所を旧セイントクリニックに移転
5 年	2 月 1 日	梁川病院 介護療養病床 30 床を医療療養病床に転換 50 床すべて医療療養病 床として算定開始
5 年	7 月 31 日	梁川病院閉院
5 年	8 月 1 日	梁川病院 医療療養病床 50 床を北福島医療センターへ統合 北福島医療センターの病床数 226 床を 225 床へ再編
6 年	3 月 31 日	事業所内保育所「わんぱくらんど」閉所
	10 月 1 日	仁泉会予防接種センター開設
	11 月 1 日	福島県立医科大学寄附講座「総合内科・臨床感染症学講座」を「糖尿病内分 泌代謝内科・総合内科・臨床感染症学講座」として継承
	11 月 14 日	北福島医療センター新築移転工事起工式
	12 月 1 日	北福島医療センター新築移転本工事着工

3 組織図（令和7年3月31日現在）



4 評議員・役員・会計監査人の状況（就任順・生年月日順）

(1) 評議員（8名）

令和7年3月31日現在

氏 名	職業・職歴など	就 任 日
中野 新一	福島産業保健総合支援センター所長 医療法人敬仁会なかのクリニック理事長	平成23年8月1日
庄司 光男	公立藤田総合病院名誉院長	平成23年8月1日
渡邊 艶子	元公益社団法人福島明星厚生学院福島看護専門学校校長	平成23年8月1日
佐藤 和子	有限会社佐平取締役 チャイルドラインふくしま監事	平成23年8月1日
佐藤 敏信	元厚生労働省健康局長 久留米大学特命教授	平成29年6月27日
数又 清市	ふくしま未来農業協同組合代表理事組合長	令和元年6月25日
佐藤 正	一般社団法人伊達医師会会長 医療法人すずき医院理事長	令和4年6月28日
長沢 弘美	伊達市健康福祉部長兼福祉事務所長	令和5年6月27日

(2) 理事（10名）

氏 名	職業・職歴など	就 任 日
木村 秀夫	公益財団法人仁泉会理事長	平成23年8月1日
菊池 重幸	保原中央クリニック院長	平成16年6月1日
今野 明	北福島医療センター医師 元梁川病院院長	平成25年3月22日
石井 祐聖	福厳寺住職 真言宗豊山派総合研究院事相研究所所長	平成25年3月22日
秋山 時夫	元公立小野町地方総合病院企業団企業長	平成26年6月26日
志賀 隆	北福島医療センター名誉院長	平成28年6月28日
平野 典子	公益財団法人仁泉会統括看護部長	令和3年3月29日
松本 進	北福島医療センター院長	令和4年6月28日
菊田 敦	福島県立医科大学間葉系幹細胞応用研究講座（教授） 小 児腫瘍内科（特任教授） 小児・AYAがん長期支援センタ ー（特任教授）	令和6年6月24日
木村 守和	日本医師会代議員 いわき市医師会顧問	令和6年6月24日

(3) 監事（2名）

氏 名	職業・職歴など	就 任 日
芳賀 裕	ロアフォルジュ司法書士事務所所長	平成30年10月12日
尾形 省二	尾形省二公認会計士事務所所長 尾形省二税理士事務所所長	令和6年6月24日

(4) 会計監査人（1名）

氏 名	職業・職歴など	就 任 日
OAG 監査法人	OAG 監査法人代表社員 今井基喜	平成30年11月5日

5 職員の状況

(1) 令和7年3月31日現在の在職状況

職 種	人 数	職 種	人 数
医師	48	理学療法士	36
保健師	3	作業療法士	14
看護師	171	言語聴覚士	7
准看護師	29	リハビリ補助員	1
看護補助員	32	歯科衛生士	2
看護系 計	235	診療放射線技師	14
介護福祉士	66	薬剤師	8
介護士	11	臨床検査技師	13
介護系 計	77	臨床工学技士	2
事務員	70	検査補助員	1
クレーク	16	管理栄養士	7
施設・環境整備員	20	栄養士	2
事務系 計	106	調理員	10
		視能訓練士	3
		社会福祉士	6
		相談指導員	3
		介護支援専門員	8
		医療技術系 計	137
		合 計	603

(2) 入退職者の状況（実人数）

入職者 正規職員 34 名 パート職員 26 名 合計 60 名

退職者 正規職員 48 名 パート職員 16 名 合計 64 名

(3) 令和6年度入職式の実施

期 日 令和6年4月1日

場 所 北福島医療センター 講義室

入職者 15 名（看護師 10 名、理学療法士 2 名、作業療法士 1 名、臨床検査技師 1 名、
診療放射線技師 1 名）

(4) 令和6年度新規採用予定者入職前説明会の実施

期 日 令和6年3月11日
場 所 北福島医療センター 講義室
参加者 新規採用予定者12名

(5) 職場環境の改善とメンタルヘルス不調を未然防止するための取り組み(1次予防)

① ストレスチェックの実施

令和6年9月実施 回収率86.2%

② 職員のためのメンタルヘルス相談

令和6年4月から月1回実施 計12回

(6) 表彰等

福島県看護功労者 看護団体活動功労者表彰

令和6年10月26日 北福島医療センター 原 恵理子
遠藤 順子
盛藤 和代

(7) 医療従事者(職員)育成のための支援活動

① 奨学金の貸与

奨 学 生 1名(看護師)

② 新入職員オリエンテーション

令和6年4月1日および3日の2日間 18名参加

③ 管理職研修会

テーマ 「自分を変える魔法の言葉」(主任職)

講 師 石井 祐聖 様 (福厳寺住職・公益財団法人仁泉会理事)

期 日 令和6年10月3日(木)

場 所 北福島医療センター 講義室

参加者 45名

テーマ 「リーダーに求められるもの」(課長職以上)

講 師 石井 祐聖 様 (福厳寺住職・公益財団法人仁泉会理事)

期 日 令和6年10月4日(金)

場 所 北福島医療センター 講義室

参加者 51名

以上



公益財団法人

仁泉会